

「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム」事業のご紹介

令和2年8月、厚生労働省による「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム」事業がスタートしました。本事業は、介護ロボットの導入を検討する介護現場と、開発を手掛ける企業・団体とを結び様々な施策を実施し、介護ロボットの普及促進を目指しています。

介護ロボットの普及率はまだ低く、公益財団法人 介護労働安定センターが発表している2020年（令和2年）度介護労働実態調査結果の「事業所における介護労働実態調査 結果報告書」によると、介護ロボットを「いずれも導入していない」と回答した施設・事業所が80.6%に達しています。

本紙では関連政策・事業を推進する厚生労働省老健局高齢者支援課介護ロボット政策調整官 介護ロボット開発・普及推進室 室長補佐の山田士朗氏に、事業推進の背景や今後の展望についてのレポートを寄稿いただきました。

レポート **山田 士朗 氏**
 厚生労働省老健局
 高齢者支援課 介護ロボット政策調整官
 介護ロボット開発・普及推進室 室長補佐

「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム」実施の背景および今後の展望について

背景・目的

日本の高齢化は世界に例を見ない速度で進行しており、介護人材不足が大きな課題となっている。介護分野の人材を確保する一方で、限られたマンパワーを有効に活用する解決策の一つとして、高齢者の自立支援を促進し、質の高い介護を実現するためのロボット・センサー等のテクノロジーの活用が期待されている。

現在、ロボット技術の介護現場における利用は、様々な分野で様々な主体により取り組まれており、今後さらに介護ロボットの活用を推進するためには、介護現場のニーズをふまえた介護ロボットの開発、介護現場への介護ロボットの周知・体験機会の創出、介護ロボットを活用した介護技術・業務改善方法の構築等、開発・導入・普及・活用それぞれの段階で必要な取組を実施していくことが重要である。

また新型コロナウイルス感染症が発生し、「新たな生活様式」が求められている中、見守りセンサーやICT、非装着型の移乗支援などの非接触対応に効果的なテクノロジーの導入をより一層強力に進めていく必要がある。

本事業は、地域における開発から活用までの相談窓口（地域拠点）を設置するほか、介護ロボットの製品化にあたっての評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成するとともに、実証フィールドを整備することにより、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォームを構築し、介護ロボットの開発・普及を加速化することを目的に、令和2年8月に開始した。

(本事業のホームページ URL : <https://www.kaigo-pf.com/>)

取組内容の概要

相談窓口（地域拠点）

介護ロボットに関する介護施設等からの相談、開発企業等からの実証相談等へ、一元的にきめ細かに対応。全国で今年度中に14箇所まで増設。（8月31日時点13箇所）

《主な取組内容》

- ・介護現場と開発企業双方からの介護ロボットに係る相談の受付
- ・各種助成制度やファンドの紹介
- ・介護ロボットの体験展示
- ・介護ロボットの試用貸出（無償、協力企業に対して事務局から謝金支払い）

リビングラボ

介護ロボットの開発・実証のアドバイザーボード兼先行実証フィールド。全国で8箇所設置。

《主な取組内容》

- ・介護ロボットの製品評価・効果検証
- ・個別に開発企業等からの求めに応じて実施する介護現場での実証における助言
- ・次期報酬改定に向けたデータ蓄積を目的に大規模実証を行う「介護ロボットの効果測定等一式」事業への助言

実証フィールド

全国の介護施設等の協力により、以下を目的とし現場実証を実施。

- ・エビデンスデータの蓄積
- ・政策的課題に対する対応
- ・個別の開発企業への対応

介護ロボットのニーズ・シーズ マッチング支援事業

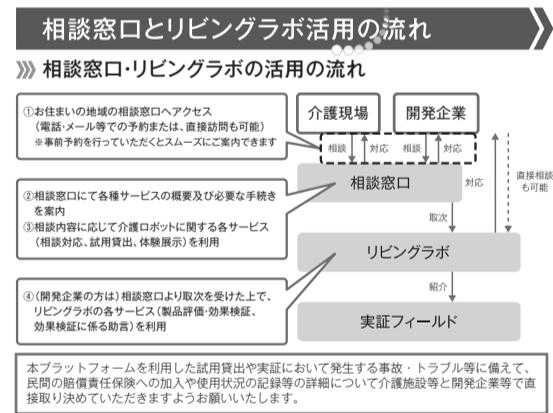
過去に実施した「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会」において抽出された介護現場の課題（ニーズ）と、介護ロボット開発に携わる企業等が保有する製品や初期段階の試作機、要素技術等（シーズ）を最適と判断される組み合わせでマッチングするように支援する。それにより企業自身への気づきを与え、介護現場の真のニーズを汲み取った介護ロボットの開発やその利活用方法に結びつけることを目的とする。シーズ同士のマッチングも支援対象としている。

(当該事業のホームページ URL : <https://www.kaigo-nspat.com/>)

今後の展望

厚生労働省では本事業により、上市済みの介護ロボット等のテクノロジーをより広く周知させるとともに、開発企業に対しても介護現場のニーズをふまえた製品開発の後押しを引き続き行う予定である。

また地域医療介護総合確保基金を活用した介護現場への導入支援や、介護の質の維持・向上、介護職員の業務負担軽減等に資するテクノロジーを定着させるための介護報酬改定等も含め、総合的にサポートすることにより、介護分野の人材不足の軽減に繋げる。



〈相談窓口一覧〉	
A. (福) 北海道社会福祉協議会	北海道介護ロボット普及推進センター
B. (福) 青森県社会福祉協議会	青森県介護開発・福祉機器普及センター
C. (公財) いきいき岩手支援財団	岩手県高齢者総合支援センター
D. (福) 埼玉県社会福祉協議会	介護すまいる館
E. (社) 横浜市リハビリテーション事業団	横浜市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口
F. (福) 富山県社会福祉協議会	福祉カレッジ 介護実習・普及センター
G. (国研) 国立長寿医療研究センター	健康長寿支援ロボットセンター
H. ATC エイジレスセンター	介護ロボット相談窓口
I. ひょうご KOBE 介護・医療ロボット開発・導入支援窓口	
J. (社) 健祥会	徳島県介護実習・普及センター
K. (一社) 日本福祉用具供給協会	広島県ブロック
L. 九州介護ロボット開発・実証・普及推進センター	
M. 鹿児島県介護実習普及センター	

横浜市総合リハビリテーションセンターの協力のもと、H.C.R. 2021会場内にて「介護ロボット相談コーナー」を設置いたします。こちらも是非ご活用ください。
 (H.C.R. 事務局)

〈リビングラボ一覧〉	
① 東北大学	青葉山リビングラボ
② Care Tech ZENKOUKAI Lab	(福) 善光会 サンタフェ総合研究所
③ Future Care Lab in Japan	(SOMPOホールディングス(株)、SOMPOケア(株))
④ 柏リビングラボ	(国研) 産業技術総合研究所
⑤ 藤田医科大学	ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター
⑥ (国研) 国立長寿医療研究センター	健康長寿支援ロボットセンター
⑦ ロボット活動支援機器実証センター	(吉備高原医療リハビリテーションセンター)
⑧ スマートライフケア共創工房	(大) 九州工業大学